

## 拠点形成研究交流報告：アメリカ・テキサス A&M 大学で、Guoyao Wu 教授、Fuller Bazer 教授と共同研究

1月21日から22日まで、海外研究拠点・アメリカ合衆国・テキサス A&M 大学を訪問して、Guoyao Wu 教授（拠点代表者）、Fuller Bazer 教授と共同研究（セミナーを含む）、大学院生の共指導プログラム、合同シンポジウム開催に関して打ち合わせを行いました。まず、21日に、上記2名の教授と本事業で現在、同大学へ派遣されている大学院生・古川恭平さんを交えて、今年度の研究交流について、今後の課題も含めて、意見交換を行いました。また、2018年度の活動として、教員・大学院生の派遣に加えて、食の機能性、安全性に関する合同シンポジウムをテキサス A&M 大学で開催することを決定しました。このシンポジウムは、日本から5名、テキサス A&M 大学から3名と、カリフォルニア大学デービス校から1名の講演者を迎え、9月下旬に開催の予定となります。翌22日には、Mark Zoran 教授（Associate Provost, Office of Graduate and Professional Studies: 右図）を訪ね、本研究科が計画中の大学院生の共同研究指導プログラムについて説明し、本プログラムを含む学術交流協定について協議しました。続いて、キャンパス内で、野地智法准教授から「Developmental uniqueness of immune and microbial environments in the mammary gland」、白川仁准教授から「Beneficial effects of dietary rice bran on DSS-induced experimental colitis in mice」と題するセミナーで、現在進めている研究が紹介されました（下図）。テキサス A&M 大学教員、学生と活発な議論がなされ、本セミナーを通じて、共同研究に繋がるシーズを得ることができました。今回、このような機会を提供して頂きました、研究拠点形成事業の研究交流支援に感謝いたします。



CFAI（企画管理ユニット 豊水正昭、感染免疫ユニット 野地智法、食品評価ユニット 白川 仁）